

## 問題【国語】

下の( )に人物の名前を入れて、ことわざ・慣用句を完成させましょう。

- (1) ( )にも筆の誤り
- (2) ( )の泣き所
- (3) ( )に説法
- (4) ( )の卵

## 豆知識 雑学コラム

### ことわざ・慣用句に“有名人”

ことわざは教訓をいろいろなものを使ってうまく言い表したフレーズです。「猿も木から落ちる」だと「木登りが得意な猿でも木から落ちることもある。どんなに得意でも油断は禁物」のように身近な動物を使っているものは意味も覚えやすいものですね。一方でことわざの中には「弘法にも筆の誤り」のように人物名が入ったものもあります。こうした人名の入っていることわざはその人物のことを知らないで、どんなことわざなのか実感できないですよ。今日は、ことわざや慣用句で出てくる人物についてみていきましょう。

まず、「弘法にも筆の誤り」についてです。弘法とは、平安時代の僧侶、空海のことです。空海はとても書道がうまいことで知られていました。そんな書道がうまい空海でも書き間違いをするということから「どんな名人でもときにはまさかの失敗をする」という意味の「弘法にも筆の誤り」ということわざが生まれました。また、空海には「弘法、筆を選ばず」ということわざもあります。これは空海のような名人になると、どんな筆を使っても字をうまく書くこと

ができるという意味のことわざですよ。1000年以上後の現在でも字がうまいことで、二つもことわざが残っているなんてすごい名人だったんだと実感できると思います。

次に、「弁慶の泣き所」です。弁慶は源義経の家来で、とても強い人物として知られた人物です。そんな弁慶でも、脛を攻撃されたら泣いてしまうことから、脛のことを「弁慶の泣き所」と呼ぶことがあります。また、家ではとても強く威張っているが、外ではいくじがない様子で「内弁慶」といいますよね。弘法と同じように弁慶も長く語り継がれるすごい人物だとわかりますね。

さて、日本語のことわざや慣用句に出てくるのは日本人だけではありません。「知り尽くしている人に教えを説く」という意味の「釈迦に説法」や「人がやった後では簡単そうに見えることでも、それを最初にやることは難しい」という意味の「コロンブスの卵」などがその例になります。他にどんな人物がことわざや慣用句に使われているのでしょうか。いろいろなことわざや慣用句を挙げてみましょう。

## 【解答】

(1)弘法 (2)弁慶 (3)釈迦 (4)コロンブス